

LMS の開発についての考察

森 喜代志、立野 敦志
株式会社ベルブック

1. はじめに

株式会社ベルブックは昭和35年創業の医学・歯学・薬学・看護学に特化した洋書販売を基本にビジネスを執り行っている。今回 J F E 健康保険組合川鉄千葉病院図書室司書奥出麻里様との共同開発により LMS (Library Management System) の開発を行い、システムとしてのベータ版完成をみたのでここに報告をする。

2. システムについて

本 LMS の特性は図書館・図書室内で作業を行う、司書の方々の日常の激務の軽減を第一目標に掲げているということである。ベースとなるデータベースには各図書室で作成されているであろう、EXCEL や File Maker Pro. で作成された図書データ(単行本・雑誌)のデータを SQL に変換しスピード検索に対応可能にしている。又内部は4つのモジュールに分割され、図書館利用者が主に使用するトランザクションモジュール(1) 図書館司書の方が統計処理または単行本や雑誌の追加・削除に使うレポートイングモジュール(2) マネージメントモジュール(3)、又今後医局やナースステーションからでも図書の検索、予約が可能になるネットを使用したオンラインモジュール(4) から構成されている。(添付図参照)

3. システムの条件

本システムは病院附属の図書室、特に蔵書数1万冊から4万冊規模の図書室・館を対象とする。各図書室・館の受付に本システム稼動可能なターミナル・バーコードスキャナーを常備する。PCは Windows XP、Vista, 2000、etc が稼動すればよい。

各図書館で独自の入力形態ではあるが、蔵書のデータベースを保持しているということが望ましい。

トランザクション入力はベースとしてバーコード・スキャナーを媒体とする、又使用ユーザーには各自のユーザーID を与えられることを条件とする。

4. 画面の例及び使用言語/データベース

言語は英語/日本語の切り替えをユーザー認証ルーチンで執り行う、システムは VB.NET PHP を主体として、SQL、mySQL をデータベースに使用している。

